

# 下水道事業の財政状況について 平成20年度公共下水道特別会計決算より

羽曳野市の下水道は、市民の皆様から納められている下水道使用料により支えられています。皆さまに下水道の財政と使用料のしくみについて知っていただくため、平成20年度決算による財政状況をお知らせします。

## ～下水道を管理運営するための費用と財源について～

下水道施設を管理するための費用は、自然現象による雨水を速やかに排除するための雨水処理費と、使った水をきれいにするための汚水処理費があります。

受益者負担の原則から、雨水処理費は税金（公費）で、汚水処理費は下水道使用料（私費）で負担するしくみとなっています。「雨水公費・汚水私費の原則」

平成20年度は、下水（雨水・汚水）を処理するために22.5億円かかりました。その財源は、上記の原則により雨水処理などに要した8.6億円は、税金（公費）で負担し、汚水処理に要した13.9億円については、皆様からの下水道使用料収入8.4億円と不足する5.5億円を税金（公費）

費）で補いました。その結果、本来100%であるべき汚水処理費に対する下水道使用料収入の割合（経費回収率）は60.5%となっています。

汚水処理費は、使った水をきれいにするために必要な下水道管や処理場などの維持管理費や建設工事に要した借入金の返済金などで構成されています。

これまで、人件費の削減、施設管理の委託や低利率への借換債等による経費削減を行っておりますが、下水道整備に伴い汚水処理費は増加となりますので、現行の下水道使用料収入では、これまで以上に財源不足が生じ、経費回収率の低下も見込まれ、財政状況はますます厳しくなります。

下水道事業の経営健全化を図るため、平成21年12月議会において、平成22年10月1日から3カ年にわたり段階的な使用料の値上げについて可決されました。今後も、下水道事業の状況をお知らせするとともに、業務の見直し、維持管理費の削減、事業費の抑制など一層の経費削減に努め、効率的な下水道事業運営を図ってまいります。

